

## 平成26年度第1回 西脇市ふるさと経営推進市民会議 会議録

開催日時	平成26年12月12日（金） 19時00分～21時15分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2
出席者 <敬称略>	生田伸吾、大久保恵司、大嶋俊英、大西すず、大前道廣、 勝岡めぐみ、亀岡澄子、藤井志帆、藤原孝三、宮崎美椰子、 吉田光一郎（※50音順） （オブザーバー）中川幾郎、片山市長 （事務局）ふるさと創造部：大前部長 企画政策課：細川課長、萩原補佐、澤田主任、中野 まちづくり課：柳田課長、高瀬補佐

### 会議の概要

（次第に沿って進行。意見等は以下のとおり）

#### ■片山市長あいさつ

- 皆様には、お忙しい中、また寒い中お集まりをいただき感謝を申し上げる。
- これまでも申し上げたことがあるが、西脇市役所には「全国で2番」ということがある。これは、類似団体との比較で、全国で2番目に職員数が少ないということである。
- 初めて聞かれる方はすごく意外だという顔をされるが、何が言いたいのかというと、中川先生をはじめ皆様のご協力をいただきながら、限られた人数の中で最大限の仕事ができるようお知恵を拝借したいと思っている、ということである。本日もよろしく願いたい。

#### ■議事(1) 自治基本条例の推進状況及び来年度の取組について

- 事務局から、資料に沿って、現在の推進状況及び来年度の取組予定について説明  
<意見>
- 「参画と協働のまちづくりガイドライン」の改定を審議会で進めていただいているが、市民へのPR、広報、啓発活動についてはどのようにお考えか。  
→（事務局）ガイドラインの概要版を作成し、全戸に配布したいと考えている。また、審議会の委員さんによる啓発も検討したいと思っている。市職員が10回言うより、市民が1回言われる方が効果があると思うので、検討課題とさせていただきたい。

## ■議事(2) まちづくり市民アンケートの結果概要について

- 事務局から、資料に沿って、平成26年9月に実施した市民アンケートの調査結果の概要について説明

<意見>

- 回答率が上がったのには何か仕掛けがあるのか。単に結果として上がったということなのか。  
→ (事務局) 啓発方法については、前回までと同様に防災行政無線等で行った。結果として上がったものと考えている。
- アンケートについては、ただ追跡調査に終わっているという気がするが、もったいないと思う。結果的にこうやったから良くなったんだ、という喜びが伝わってこないし、下がったから残念というのもないし、結果として上がった、下がっただけの話になっている。アンケートの結果に加え、もう少しそのような思いが伝わるようにしていただきたい。  
→ (事務局) 昨年もそのようなご指摘をいただいた。総合計画のもとで個別の分野の計画も策定しており、その推進状況によって指標が上がったり下がったりしていると思うが、個別の状況については分析できていない部分がある。今後、こういった施策が市民アンケートの結果に反映できたのか、項目をピックアップしながら検討する必要がある。
- 西脇市全体に対するロイヤルティーが下がっているのはゆゆしき事態と思う。「住み続けたい」という項目が下がり続ければ、なんでそうなるのかと思うところである。そういったものも示してもらえると、市民レベルでもおおっと思えるようなものになると思う。
- 働く場所の充実という項目について、もう少し詳しく教えてほしい。  
→ (事務局) 市内の就労環境における実感をお聞きしている。市全体として、働ける場所が充実しているのかということである。
- 働いている方が、自分の働く職場の環境が充実している、という意味ではないのか。  
→ (事務局) そうではなく、市全体として働く場所があるのか、ということである。

## ■議事(3) 「まち・ひと・しごと」の創生と西脇市の人口推計について

- 事務局から、資料に沿って、今後の人口推計等を説明

<意見>

- かなり深刻な状況と感じた。転出を防ぐとか、結婚を促進し出生率を増やす、という施策が考えられるかと思うが、やはり働く場を作っていくことが大事であると感じた。
- 西脇に働く場がもっとあればと思う。子どもをたくさん産んだとしても、働く場がなければ流出してってしまう。市内の大きな企業や商業施設の撤退ということが頭の中をめぐったが、働く場がもっとあればという結論に至った。
- 働く場はもちろんだが、遊ぶ場所がない。休みの日に映画を見に行くのに何時間もかけて行かなければならないということで、文化的にもどんどん遅れていく気がする。文化面での充実も必要だと思うし、楽しめる場所も必要と思う。いろいろなことがないない尽くしになってしまうが、そうも言っていられないので、今後考えていかなければならない問題だと思う。

- 人口ピラミッドの花瓶型のグラフを見て、本当に若い人が減っていくんだなと思いショックだった。どうしたらいいのか答えは簡単に出てこないが、仕事があるということ、子どもたちが健康で元気に暮らせるということが大事だと思った。また、これは知り合いの方に聞いた話だが、90歳の方が、なるべく家族の世話にならないようにと、通院やお稽古ごとの際につくしバスを利用されているらしい。そういうバスがあるということはあるがたいことだと思った。
- 未来を作るのは子どもである。そのためには出産、その前には結婚、結婚して生活するためには仕事ということで、結局はその循環だと思う。人の流れをどうやって作っていくか、このことを研究していかなければならない。
- 説明を受けて色んなことを思った。私も子育て世代であるが、大型商業施設がなくなり遠くへ行かなくてはならないとか、本当に不便なことが増えてきている。昔のような、播州織が盛んないきいきとした西脇に戻ればいいが、どんな手段を使って西脇市に人を集めるかということを考えないといけないなと思った。播州織もそうだし、地元出身の有名人もたくさんいるし、もっとそういう面のPRをしながらまちが元気になればいいなと思う。私たちですら不便なのに、障害をもたれる方や高齢者はもっと不便を感じておられると思うが、そのような方々が暮らしやすい西脇になればいいなと思うので、そのあたりをもっと考えていかなければいけない。子育てするなら西脇市、と言えるようなまちになるよう盛り上げていきたいとも思う。
- 高齢者の方と出会う機会が多いが、大型商業施設がなくなり、みんなでお茶を飲むような場所がなくなってさびしいという声をよく聞く。このような場所を作ってあげてほしいと思う。
- 人口の推計を見て本当に深刻だと思った。近隣市が住みよいような印象があるが、地域の実情も見ながら、その市がどうしてそうなっていったのかということを考えなければいけないと思った。私は障害のある方と向き合う仕事をしているので、こういう場ではその立場から意見をしたいと思っているが、人口のすごく深刻な状況を見て、そういうことも言いにくいとも思ってしまった。大型商業施設があるうちは、障害のある方もそこへ行って楽しんでおられたが、今はどこへ行かれてるのだろうかと思う。充実した生活を送るためには、平日だけではなく休日にどう過ごせるかということも考えないといけないと思った。
- 2点意見がある。1点目は、人口が減るばかりという話であったが、そこに経済的価値も加えた見方も必要ではないかと思った。例えばGNPのような指標とか、そのようなものをかけあわせ、市がどう変化していくのかということも見ないといけない。西脇はこれからどうやって地方創生に取り組んでいくのか、やはり付加価値の高いものを作っていくということを考えないといけない。人口の表だけを見るとみんな下を向いてしまうばかりになるので、次にデータを出されるときは、経済的な価値も含めた比較をしてほしいと思う。もう一点、高齢者が増えていくという話があったが、60歳になられると地元へ帰ってこられるケースが多い。ということは、やはり自然を求めているということだと思う。今後は都市からの高齢者の受け入れということも考えていかないといけない。高齢者を受け入れる福祉都市という打ち出し方をすれば、きっとニーズはあると思う。北播磨は都市の後背地で、自然が豊かである。子どもたちを自然に触れさせるととても喜ぶし、そのよう

な機会をできるだけ早い段階で体験させるべきだと思う。60歳での転入のピークがあるということだが、その層の取り込みをすれば生き残っていけると思う。歴史的資産、自然面の資産などはたくさんあると思うので、このような取り込み策などをいち早く立ち上げた都市が生き残れると思う。

- 今の意見にすごく同感である。都会から戻って来てボランティアをされているような高齢者は、すごくいきいきとされている。それがある程度の収入につながるということであれば、その方々はさらに素晴らしい活動をされると実感している。そのような活動の場は今黒田庄にあるが、それ以外にもそういう場を作っていければ、人と人とのつながりもでき、UターンやIターンの希望者がもっと増えるのではないかとも思う。また、市民アンケートの中で、西脇市に住み続けたいという指標などが下がってきているのがとても心配である。指標が全部プラスになるような西脇市であってほしい。茜が丘にできる複合施設もとても楽しみであるが、今の図書館もなんとか活用できるような方法も考えてほしい。また、比延地区が特に高齢化率が高いということであったが、移動販売車など素晴らしい取組をボランティアでされている。地区の公民館を拠点として、こういう活動がいろんな地区に広がっていけばと思っている。
- 雇用については、企業誘致は非常に難しいと感じるが、派遣やパートではなく、あくまで正社員としての雇用が見込まれる企業の誘致が必要だと思う。また、大学などの誘致は難しいと思うが、例えば繊維関係の専門的な学校などの誘致が出来ないかと思うところである。また、市内で廃墟になりかかっているような施設もあるので、そこに国の出先機関を誘致することなどが出来ればいいとも思うが、今のままの状態に残っているのは市にとってもすごくマイナスだと思う。

<オブザーバー（中川先生）意見>

- まちづくり市民アンケートの結果は、ものすごく見事なデータが出ていると思う。それは、行政側の努力の成果はものすごく出ているということである。地方自治は、団体自治と住民自治と言うが、団体自治、つまり行政の内部努力というのは市民の役に立っているということが成果に出ている。
- ただ気になるのは、住民自治の方の政策的な対応というのが非常に遅れているのではないかとということである。つまり、西脇でいうと、まちづくり協議会を自治基本条例上の認定されている団体として、公共的団体としての住民自治協議会に持ち込んでいくという政策対応がきちんとまだ進んでいない。それが住民側の不安としてあちこちに綻びが出てきていると思う。もっと早く手を打たなければならなかったと私は思っている。
- 住民もまだまだ大丈夫と思いついて入っているかもしれないが、このままいけば、滅んでしまう地域、あるいは撤収しないといけない集落も出てくると思う。そこにバスを持ってきてほしいとか、コミュニティバスを持ってきてほしいとか、公共施設の投資をやれといてももう無駄だと思うし、それをするには何百万円もの税負担をしてもらわないとやっていけない。
- 例えば、ある歌手が離島を買って、電力会社に電気を引っ張ってくれと言ったら1億円

要求されたそうであるが、それと同じような話が出てくる。それも含めて行政の責任と言えるのだろうか。そのような認識が住民側にちょっと欠けている。

- アンケートでは、「移動に困っている」が増加し、「ともに支えあい助け合って暮らしている」、「住み続けたい」、「愛着を感じる」、「子どもたちが健やかに育っている」「健康に暮らしている」が減っているが、これが住民の実感である。その一方で、「医療体制が整い安心して暮らせる」、「医療機関の受診が適正」、「かかりつけ医がある」が伸びてきているが、これらは行政の努力の反映である。それに対して住民が目に見えて弱ってきているということだと思う。
- これらを見て、行政も政策の方向性を住民自治の強化の方に向けるべきであるということ強く感じた。これ以上、行政の努力には限界があると思う。これ以上投資しても、行政経営側からのアプローチはもう無理。住民の自治能力を高めていく方向へ投資すべきだと思う。
- 次に、「まち・ひと・しごと」の話だが、人口が全国的に減ってくるのはもう当たり前のことで、何も西脇だけの話ではない。ただ西脇は、いわゆる中心部と郡部との落差が激しいので、いわゆる郡部に関しては、郡部・中山間型の政策を取るべきであり、中心部においては、中心市街地の空洞化に対抗する施策を取るべきだと思う。同じ施策では対応は難しい。
- 思い切って、西脇の中における自給自足経済をイメージされたらいいのではないかと思う。西脇の中で集められた税金は、西脇市民のために使う。これまで住民が「安かったらいい」、「職員数が多い、職員の給料が高い、職員はもっと働かないといけない」こういうことばかり言い続けてきたツケがついに来たんだと思う。何でもかんでも大手を採用して、都市部の方でいい物を安く作れたらいいじゃないかというような考えはやめた方がいい。電気もガスも水道も米も、何でも西脇のものを使うというくらいの思想を持った方がいいと思う。自給自足のサステナブルディベロップメント都市、つまり持続可能な発展を描く都市の構想に大きく切り替えていくということである。
- それから、教育、保育、福祉については、市民産業を育成し、市民自身が経営者になってほしい。そういう経営者能力を持った市民層を鍛え、育てるためにNPOを鍛錬し、住民自治協議会を鍛錬する。そういうところに指定管理者になってもらうとか、そこに委託料を払うという形で産業を起こしていくという大転換をするべきだと思う。
- そして、外部に向かって攻めて行くためには、西脇のアイデンティティを高めないとはいけない。そのために一番大事な方策は、まず教育力を高めること。兵庫県内でもベスト10どころかベスト5に入れるぐらい小中学校教育の評判がいいとか、そういうところに手を打つべきである。だったら西脇に移住しようとか、いい教育を受けさせてくれるみたいだと、まずそういう勝負をしないとけない。
- それからもう一つは、文化力を高めることである。やはりいい教育力を持ったご両親というのは、それなりの文化的な水準があるまちでないに住んでくれない。これは神戸がとった戦術であるが、神戸が医療産業都市として取り組むと、子育て期の研究者ばかりが来る。その人たちにその理由のアンケートを取ると、学校教育水準というのが一番で、二番目は犯罪がないこと、三番目は近くに美術館、図書館、公民館、文化ホールがあるという

ことだった。

- 西脇はそういったものをフルセットで持っていると思うが、そこから出てくるプログラムや事業について、レベルが高いという評価を勝ち取らないといけない。全国並みのことをやってももう駄目である。とにかく突出することである。そういう意味では、例えば今持っているホールも健闘はしているが、もっと突出できると思うし、市民会館ももっと変えていくべきだと思う。教育の高度化、それから文化政策の重視、そのことで西脇の都市の格を上げていくという勝負はできると思う。
- そして、産みやすい、子育てしやすい、働きやすい環境をつくるためには、まずもって基本的な人権を重視した政策姿勢を出さないと駄目である。高齢者を大事にする、障害者を大事にする、弱い子どもを守る、女性も男性もともに共同社会で頑張るとか、「人口は少ないけどすごく仲はいい」と言われるような、そういう部分を高めていくしかない。
- 人口の多い少ないで勝負する時代は終わっている。その当該人口の中における優れた市民層の比率の勝負である。ただ、アンケートのデータを見ていると、そのやる気のある市民層が減ってきている。
- 行政はすごく頑張っているが、満足している市民はみんな個人満足、個人自己実現満足ばかりであり、集団的自己実現の満足のデータが悪い。ということは、地域コミュニティがほつれてきているということであり、この危機を早く乗り切らないと危ないなという気がする。
- また、産業面では、オンリーワンの中小企業みたいなものを優遇して、引っ張ってくるという大胆な施策をやってもいいと思う。徳島県の神山町がやっているが、アーティスト・イン・レジデンスといって、芸術家を呼び込むということをやっているし、いわゆるSOHO産業、スモール・オフィス・ホーム・オフィス、ということをやっていて、人口がじわじわと増えている、そのようなまちもある。
- それと、観光については、例えば温泉、うまい物、名所旧跡、というだけの観光ではもう駄目である。ここでは面白いまちづくりをやっています、とても楽しい人がいます、という観光でないといけないと思う。
- もう一つの事例であるが、先日、神戸のある地区でまちづくりのワークショップをしたが、住民の満足度が非常に高い一方、データを見るとすごく悲観的なものであった。その地区は今日話が合った消滅可能性都市に入っているが、なぜかという人口が半分に減るから。そして高齢化率も40%となる。住みやすいところなのだが、傾斜地だからである。
- 全くこれと同じ衰退をたどった地域が阪神間にもあるが、そこでは百戸単位の住宅が続々と空き家になっている。そこでは今から7～8年前に何が起こったかということ、バスが走らなくなる、本数が減るということである。事業者は赤字を抱えても走るような普請事業ではない。もしそれでも走らせたなら、株主代表訴訟になってしまう。営利企業にやってくれと言っても通らない話である。高齢化率が4割になったらバスは走らなくなる。それを覚悟しておく必要がある。
- もう一つ言いたいのは、外部からどう見られているかということのも大事ではあるが、西脇のようないいまちでも、住民の皆さんに、燃えるような、まだ何とかなるんだ、何とかしようというビジョンを持って欲しいということである。少なくともあと5年後、10年後こ

んなまちに変えてやろうという、そういうまちづくり協議会ごとのイメージを持って、構想をつくって欲しいと思う。

- 今日聞いたのは、放っておいたらこうなりますという話で、それを聞いてあきらめてしまっているのではないだろうか。あきらめてはいけない。それを考えるのが政策であり、政策というのは、現状からどんな未来に変えてやるかという勝負である。そのために使える材料はどんどん使っていく必要がある。
- また、外来人口や交流人口、訪問人口を増やそうという話があったが、それも当たりだと思ふ。当たりではあるが、それらの方々の滞留率を高め、場合によっては定着したい、と思わせる戦略を今から立てる必要があると思ふ。
- いい意見だと思つたのは、公民館を使うという話である。公民館を使って、Iターン、Uターンの人たちに、このまちに定着するにはこんなことを学習しましょうという、そういう必修講座をやってあげたらいいと思ふ。会社人間が地域に入って、会社の流儀を通すから破綻してしまう。ちゃんと地域に着陸できる人は、ほとんどが昔のことを知っているUターン組である。しかし、Iターン組で手詰まりになるのは、「私の会社では」ということを言うからアウトになるということである。この土地のルールは何か、というのを学習しないと続かないし、そのためには基礎講座をしないといけない。
- これから一人暮らしの高齢者が増えるし、高齢者単独の世帯も増えるのだから、一人暮らしのおじいちゃんが一人で生きていくための料理教室をやるとか、こういうことを注意しなさい、ということをもっと公民館でやらないといけない。

#### ■その他

<事務局>

- 次回の会議は、2月下旬から3月上旬までの間に開催したいと思ふ。日程が決まればあらためて連絡させていただく。